
ノンフィクション物語 ～小学生修学旅行編～

三沼 実里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノンフィクション物語 ～小学生修学旅行編～

【Nコード】

N0074G

【作者名】

三沼 実里

【あらすじ】

第一小学校、6年2組は、修学旅行で、日光自然教室へとむかう。一日目、二日目、三日目と、何もない日はない。かならずおもしろいことがおきるのだ。そんな三日間をかけた話です。

オープニング（前書き）

この話は、本当の話です。ノンフィクション
実際に、私のまわりでおきたことを、書いています。

オープニング

皆さん、こんにちは！！この話の主人公、「三沼 実里」（みぬま みさと）です！

早速ですが、この話にでてくる、登場人物紹介をしたいと思います。
「実里っ！何やってんの？」

・・・えーっと、今しゃべった、やけにテンション高そうなのが、私の友達。「高谷 咲希」（たかや さき）です。

「咲希、ムダにテンション高すぎだから」

今、咲希に注意してくれたのが、私の友達2。「草壁 夏菜」（くさかべ かな）、通称夏菜ちゃんです。

あと、ここにはいないけど、「包見 鈴乃」（つつみ すずの）、通称つつみさん（咲希はすずちゃんと言ふ）と、「中山 美紀」（なかやま みき）、通称ジャガー（理由は不明）の二人も、友達です。

この話は、題名どおり、修学旅行の場面から始まります。
ではでは。始めましょう！！

第一章

足元に気をつけながら、バスに乗りこむ。

私の席は、一番後ろ。となりは、夏菜ちゃん。

後ろまで行って、席につく。すぐに、夏菜ちゃんも来た。

通路をはさんで、私たちの左側は、男子の列。ちなみに、私たちの
となりは、「金井 涼」（かねい りょう）と、「藤内 和輝」（
とうない かずき）。まあ、ぶっちゃけ、どうでもいい存在。（笑）

私の前の席に座ってるのは、咲希と、「五十嵐 真希」（いがらし まき）、通称「まつきー」っていう、紹介し忘れた、私たちの友達。特に、包見さんと、仲がいいかな？ っていうところ。

で、かんじんの包見さん（と、ジャガー）は、ちがう班。本当は、一緒によかったけど、人数や、その他もろもろの関係で、はなれることになってしまったんだ。

だから、バスの席も、けっこうはなれちゃっている。
で、えっと……。

ああ――！！！！！！すごいつ！！！！

私、すごいこと発見したよ。咲希のとなりの男子、大塚じゃん！
あ、大塚っていうのは、「大塚 竜也」（おおつか たつや）のこ
とで、咲希の好きな人。

そんな大塚が、咲希のとなりの席なんだよ。なんか、すごいよね。

このことに、夏菜ちゃんも気づいているみたい。

「咲希。その席、ねらってたの？」

って、ひやかし半分に言ってたから。

でも、それを聞いても、咲希はきよんとしている。

まったく……にぶいなあ……。

「え？なんで？．．えっ？」

ははは、超とまどってんじゃん、咲希。

「咲希、周り、よく見てみなよ」

私は笑いながらそう言った。

「．．．．．」

咲希は、少しの間、黙った。そして、

「うるさー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

と、バス全体に響きわたるような声で叫んだ。

私と夏菜ちゃんは、笑い続けていた。

そして、バスは出発した。

バスの中からこんな感じだから、きっと、この修学旅行、すっごく楽しいよね！！

第二章

「はい、第一小学校のみなさん、おはようございます!」
バスガイドさんの声が聞こえる。でも私は、おかまいなしに前にいる咲希に話しかけた。

「ねえ、咲希。本当にその席ねらってたの?」

「ちがうって! たまたまだよ、たまたまっ!!」

咲希は、即座に否定した。

「ふーん・・・」

私は納得していない声を出した。

そして、これ以上咲希をからかっても意味ないか・・・と思った私は、バスガイドさんの説明を、おとなしく聞いていた。

「ひまだね」

ふいに、となりにいる夏菜ちゃんが声をかけてきた。

「うん。たしかに」

私は、思っていることを、そのまま口に出した。すると、

「今からレクをやります」

という、レク係の声が聞こえた。

もうバスレクやるのかよ・・・。(さりげないツツコミ)

まあ、ひまだったから、いいんだけどさ。

「今から紙を配るので、ここに言われた絵を描いて・・・」

説明が長いので、略します。

- 1 . バスの列の一番前の人にお題を言う。
- 2 . そのお題の絵を、一番前の人が、描く。
- 3 . その一番前の人が、描いた絵を、二番目の人に見せる。
- 4 . 二番目の人は、その絵を見て、絵を描く。
- 5 . そうして、二番目の人は、三番目の人へ、三番目の人は、四番目の人へ・・・と見せ、どんどんリレーしていく。

6. 最後に、一番後ろの人が、その前の人の絵を見て、答え（お題）を当てる。

私、一番後ろじゃん。

一番後ろ
Ⅱ
答え言う人。

ま、いっか。絵を描くよりは、ましだし。

そして、私の前の人（つまり、咲希のこと）のところまで、紙がまわってきた。

で、どんな絵なんだ……？

描いてあった絵は、動物の絵。耳があつて、口が×になっている。

そして、にんじんを持っている。しかも、耳が長い。けっこうかわいいヌイグルミっぽい。

[illegible]

ウサギ？ウサギだよ、これ。

私が、自問自答していると、先生が、

「はい、では、答えてもらいましょう！」

と、どこか楽しそうに言う先生。

「じゃあ、藤内から」

そう言われた藤内が、

「うん。これ……えつとね……。ほら、あれだよ。第一小のマー」

と答えた。

え？第二小のマーク？もしかして、列ごとにお題、ちがうの？

「次、金井」

「運動会！！」

私の横で、元気よく答える金井。

やっぱり。列ごとにお題、ちがうんだ。

「次、三沼」

あ、私の番だ。

「ウサギ・・・？」

ちよつと自信無さげに答えた。

「次、草壁」

「えつと、何これ？花？」

へへ。夏菜ちゃんの列、花なんだ……。

でもその直後、レク係の一言によって、私はとんでもないまちがいに、気づくことになった。

「正解は、第一小のマーク、でした。藤内が、正解です」

・・・これって、みんなお題、同じなんじゃん！！！！

私は、心の中で、絶叫していた。

そしてその後、私はちよつと悩んだ。

なんで、第一小のマークが、ウサギになるんだ・・・？（ナゾだ・・・）

いことは、いっぱいあった。

そして、なんだかなで、こんな感じで、バスは日光自然教室へと、向かっていきました……。

第四章

一日目の見学場所は、全部回り終わった。今は、宿舎に行き、面倒くさい（話が長いっ！）入園式を終え、部屋に入り、ロッカーの場所をきめ、検温をし、親に出す手紙を書き終えたところ。（メチャクチャ長っ）

それさえ済めば、もう自由時間。

私は、自分で持ってきた、人生ゲームを、まっきーと咲希と、そして夏菜ちゃんとやった。

それから、お風呂へ行く準備も、した。

そうしていたら、

「食事係の人は、今からお風呂に入ります。準備をして、廊下を集まってください」

という、放送が聞こえた。

私と夏菜ちゃんは、食事係。だから、ゲームを中断して、準備してあるお風呂セット（？）を持って、廊下に行った。

そして、クラスは関係なしに、お風呂に入った。

ただし、五、六分で、お風呂から出なくちゃいけなかった。

もう、急いで頭を洗い、体を洗い、顔を洗った。湯船に入ってたのんびりする時間や、友達としゃべる時間も、ない。

「ちよっと、無理のあるスケジュールだよなあ……」

と、心の中で、私はつぶやいていた。

それでもなんとか、時間どおりにお風呂から出て、洋服を、急いで着て、外へ出た。

外へ出ると、向こうの方が、なんか騒がしかった。

「なんだろうね？」

私は、夏菜ちゃんに聞いてみた。

「たぶん、みんなが、お風呂に入る時間なんじゃない？」

夏菜ちゃんは、静かにそう言った。

そっか……。私たちは、みんなより早く、お風呂に入ってる
んだもんね……。

そう言いながら、私と夏菜ちゃんは、部屋に戻った。

今は、普通の人たち（食事係以外の人たち）が、お風呂に入る時間。
つまり、部屋には、だれもない……。

……。暇だ。だって、私の他に、夏菜ちゃんしかいないんだも
ん。

「……男子の部屋、遊びに行こっか」

私と同じことを思っていたらしい夏菜ちゃんが、そう言った。

私は、あんまり気のりしなかったけど、あまりにも暇だったので、
行くことにした。

男子も、食事係以外の人は、いなかった。

「おっじゃまっしまっす!!!」

夏菜ちゃん、男子の部屋なのをかまわずに、ずかずか入っていく。
私も、

「おじゃましまっす……」

と、ひかえめに言いながら、中へ入っていった。

「わっ!!!びっくりした。なんで来んの!？」

中にいた男子が、かなりビビってる。

「えっ?暇だったからに、きまってんじゃん」

夏菜ちゃんはそう言っ、軽くスルーした。（別に決まってるわけ
じゃ、ないと思うけど……）

「あっ!そうだっ!!ジャガーとしみちゃん連れて来よっ」と

いきなりそう、でかい声で言った夏菜ちゃんは、部屋を飛び出した。

「ちよっ、ちよっと待ってよ、夏菜ちゃん!!」

おいてけぼりをくらった私は、急いでへ夏菜ちゃんを追いかけた。

〳数分後〳

私たちは、ジャガーとしみちゃんを、半分強引に連れて来た。

「おじゃまします！！（再び！）」

また、男子の部屋にずかずかと入っていく。

部屋に入ってみると、男子が新たに1人、増えていた。

隣の班の、「桂木 健」（かつらぎ けん）だ。

で、暇だしなんかしようかという話になって、そして、トランプで
もしよう、という話になった。

いたって普通のババ抜きだったのに、思いのほか、盛り上がって
いた。

「よっしゃー！！あがりー！」

一番にあがったのは、ジャガーだった。

と、そのうちに。外が騒がしくなってきた。どうやら、みんな
が帰ってきたみたいだ。

「やべえ、おい、早くしろ、早く！！！」

桂木が、そう言つと、後片付けもしないで自分の部屋にもどつて
しまった。

・・・桂木より、私たちの方が、ばれたらヤバいんですけど・・・？

そう心の中でツっこみつつ、私たちもあわてて部屋にもどった。

それからすぐに、食事係はよびだされた。

ノンフィクション物語　小学生修学旅行編

エプロンとバンダナを持って外にでる。他の班の食事係が数人、並んでいる。

「なんだ、みんな、全然来てないじゃん!!」

隣で夏菜ちゃんが文句を言ってる。

まあ、こっちとしては、かなり急いで準備してきたからね。

つとまあ、そんなことを考えているうちに、だんだんと、みんなが来ていて、人数もそろっていた。

その中に、さつき遊んだ桂木とかもいた。

そして全員そろったところで食堂へGO!・・・と思いきや、食堂はまだ開いていなかった。

「マジかよ・・・」

「開いてねーじゃん!!」

みんな口々に文句を言う。

そしてみんな、自然とみんな、目の前にあったソファに座る。そしておしゃべり。

でも、しゃべっているうちに、他の学校の人たちが来ていて、いつのまにか食堂は開いていた。

食堂に入った後、先生から軽く説明された。そして、それぞれ指定された机に並んだ。

私の班は、他の班と共同。一組の班と同じ机だった。

そしておしゃべりしながらご飯をくばったり、おみそ汁をくばったり・・・。

・・・意外と早く終わった。

あまりにも早かったので、他の班を手伝うことにした・・・。

が、他の班も終わっていたので、静かに待っていることにした。

まあ、みんなそのうちくるよなー・・・と私は思っていた。

そんな私の思いどおり、すぐにみんなが来た。

そして、他校の人が、「いただきます」と言う。

「いただきます」

半分以上の人しか言っていないような声が食堂内に響く。

そしてみんな食べ始めた。

今夜のメニューは、カレーライス。結構おいしい。みんなおかわりをする。

「今日ってレクがあるんだよね？」

私は咲希に聞いた。

「うん」

素っ気ない返事が返ってきた。

他の人たちは、いろいろな話で盛り上がっていた。

でも、そんな時間はすぐに終わった。

他校の人（またまた！）が、「ごちそうさまでした」という。

みんな立ち上がって残したものをバケツに入れたり、食器をかたづけたり……。

ああ、面倒くさいなあ……。おまけに私は、食事係。みんなが帰った後、机の上を拭かなければならない。

ほんつと面倒くさいなあと思いつつ、自分で食事係がいつて言ったんだ……と思い直した。

机の上を拭き終わって、帰ろうとしたら、咲希が待っていてくれた。そして、走って部屋にもどった。

もどってまもなく、レクをやるため、レクホールへと向かった。

「班の発表があるんだよね？」

私は班長の「坂田 瑞恵」（さかた みずえ）に聞いた。

「うん、そう。でも、こちらは明日だよ」

瑞恵はそう答えた。

レクが始まり、班の発表が終わると、今度こそ本当のレクだ。

レクでは、二つのことを、やるらしい。まず最初は、「人間知恵の輪」だ。

みんなで手をつないで、いろいろなように絡み合って、知恵の輪み

たいにする、という遊びだ。

そして私たち（咲希、夏菜ちゃん、私）は、手をつなぐ。

私が真ん中。咲希が左。夏菜ちゃんが右。

咲希のとなりは女子だったけど、夏菜ちゃんのとなりは……..
……、男子だった。しかもその男子が……桂木だった。
「……………」

夏菜ちゃんは黙って、しぶしぶ手をつなぐ。

そんなこんなはあったけど、無事にそれが終わった。

次は……、あの、面倒くさいんで、とばしていいですか？

えっ？いやだ？……だっておもしろいことなかったよ？

ならいい？よしっ、手間が省けた。（オイ）

レクが終わったのが八時ちよっとすぎ。寝なければいけない時間は、
九時。

私たちは部屋にもどった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0074g/>

ノンフィクション物語 ～小学生修学旅行編～

2010年10月9日20時52分発行